

お盆供養幡の飾りについて

久 城 寺



- ① 如以甘露灑 (によいかんろしゃ) ② 除熱得清涼 (じょねつとくしやうりやう)
③ 如従飢国来 (によじゅうけこくらい) ④ 忽遇大王膳 (こつぐだいおうぜん)

幡の経文は、「法華経」の授記品第六に下記のように説かれております。授記とは、仏より成仏の記別（予言）を授かることを云います。

～若し、仏の授記を賜れば、その時こそ快く安楽になれるでしょう。大雄猛世尊は、常に世間に安んじようと思っておられます。願わくば、私共に記を賜りますように。私共は飢えている者が教えを待って食するような、そのような状態になっています。～

その時に座に連なる目連・迦旃延・須菩提らは一心に合掌し、釈尊を仰ぎ見ながら声を同じくしてこのように言ったのです。「我等に哀愍を抱かれその深心をご存知ならば、仏の御声を頂きたく存じます。もし、授記を頂けたならば、甘露を以て熱を除き、清涼を得るが如く、又、飢えたる国より来たって大王の膳をいただくが如く、我等は心身共に安楽となるであります。・・・

◇◇◇ 餓鬼界（がきかい）の苦しみから離れ、真の成仏を願うものです ◇◇◇

五色（緑・黄・赤・白・紫）の色は、仏教では方位に配当して表しております。

緑＝東 黄＝中央 赤＝南 白＝西 紫＝北

幡＝旗とは、古来は武人が戦場において、自分の存在を目立たせるために立てるものですが、転じて仏・菩薩の威厳を表すものとして用いられるようになりました。

つまり五つの色は、東西南北、中央（所在のところ）と、すべてに渡り供養することの意味です。

＝願わくは此の功德を以て普く一切に及ぼし、我等と衆生と皆共に仏道を成ぜん＝
どうぞお家の仏壇（精霊棚）の前に、お盆施餓鬼幡供養としてお飾りください。